

平成28年 8月31日

二本松市議会議長 様

会派名 市政会  
代表者名 菅野 寿雄 

## 視察研修報告書

当会派において、下記により視察研修に参加しましたので報告いたします。

### 記

- 1 期 間 平成28年8月20日(土)
- 2 参加者 ① 菅野 寿雄 ② 安斎 政保
- 3 視察地及び視察内容  
別紙のとおり



<原発事故は早く収束に向かっている!!>  
すし

# 2016年8月20日第4回福島を忘れない！全国シンポジウム

(プログラム)

実行委員会

1:30 開会

中野区議 武藤

~~130~~ 150名

開会の挨拶

福士敬子元東京都議会議員

※一般参観～「里山除染」の  
二本松市における計画は?

## 【講演】

『福島第一原発事故 その時浪江町は』 馬場有浪江町長

原因究明・検証がされている。登陸は認められている。

## 【報告】

『避難解除地区の現状は』 菅野清一川俣町議会議員

原発推進論者であった。しかし、  
→ H.29.3月

『原発立地の町村は』 双葉町 小川貴永避難者訴訟原告団事務局次長

『避難解除の村は』 志田篤川内村議会議員

解除時期の延長要望。善い悪か、

休憩 3:05~3:15

若い世代の帰郷は延長は是。しかし、高齢者は?  
更に高齢者もハーフ21-7 (交配種の子ども、無一人)

『避難解除後の町は』 檜葉町 金井直子避難者訴訟原告団事務局長

H.27.9.5 解除。原発事故の収束と無関係に、…… (オーはアウトコントロール、オ2は炉未定)  
帰還は8.2% 65~69才の世代

『大熊町の現状』 木幡ますみ大熊町議会議員

【記念イベント】 3:55~4:35

『ふくしまの今』 脱原発お笑いコンビ「おしどり」マコ&ケン

中野野蔵施設

まとめ

柳田 真・たんぽぽ舎

2,365名地収者中、1100名解放

集会宣言

は未登記(地収者を達している)

閉会の言葉

佐藤英行北海道岩内町議会議員

本場は可能なのか?

閉会 4:45

○終了後:午後5:00~7:30 原発被害自治体議員・原告団との交流と懇親会

被害自治体議員・原告団など無料です。お気軽にご参加ください。

## 集会宣言（案）

3.11 東日本大震災から 5 年と 5 ヶ月を超えた本日、第 4 回「福島を忘れない！全国シンポジウム」を開催しました。北海道から関東・北陸まで県外の自治体議員・市民 92 名が参加、地元福島から浪江町長をはじめ原発被害自治体議員、ADR 原告団、原発告訴団など多数お出でいただき、130 名を超すこれまで最大の集いとなりました。

原発立地自治体の双葉町・大熊町、全村避難の浪江町、避難解除地区の川俣町、避難解除後の楢葉町、川内村の現状報告を受け、放射能汚染による経済的被害と健康被害は増え続け、精神的な苦痛による被害も拡大していることがわかりました。東京電力福島第 1 原発事故による最も過酷な被害は、亡くなった方や家族の自己責任とされ、国と東京電力の加害責任はいまだ不問に付されたままです。原発収束作業や除染作業に膨大な税金が投入されながら、原発事故による被害の補償と賠償責任は不十分なままで、生活を守るには裁判で争う以外ない現状です。しかも、国は居住制限と避難指示解除準備区域の避難指示を段階的に解除し、福島県・国は、自主避難者への住宅無償提供を 2017 年 3 月で打ち切り、汚染された故郷への帰還を強制しています。そればかりか東京電力福島第 1 原発の汚染水対策や廃炉作業が進んでいないにもかかわらず、川内原発に続き伊方原発の再稼働を強行しました。

本日ここに、地方自治体議員と市民は、「福島を忘れない」原点を再確認し、福島原発事故被害自治体議員・被害者と手をつなぎ、国と東京電力の責任を厳しく問うことを誓いました。

住む場所を奪われ暮らしをおびやかされ、先祖代々のふるさとに帰れない悲劇を、他の原発立地自治体で繰り返してはなりません。熊本地震が示す切迫する大地震・津波・火山の大爆発の危機に、全国の自治体議員と市民は、福島から学び福島で闘う議員・市民と手を結び、全世界の原発に反対する人々とともに、原発を止めるために力を尽します。

私たちは、ふるさとを守り、子どもたちの未来を守るため、福島を忘れず、原発再稼働に反対し、原発に頼らない社会を自治体から、全国の地域からめざすことをここに宣言します。

2016 年 8 月 20 日

第 4 回福島を忘れない！全国シンポジウム参加者一同

# 視察研修結果報告書

## 1 視察の目的

福島原発事故で大きな被害があること、回復していることを全国の地方議員の中心となって4回目となるシンポジウムが企画されたため、これに参加した。

## 2 視察結果若しくは成果

(1) 浪江町、馬場町長は「私はかつて原発推進論者であった。

しかし原発事故の原因究明、検証がされている。このような中では、原発は認められる」と述べられた。

(2) 避難解除となった川内村、楢葉町の議員からは、

原発事故の収束とは無関係に解除がされ、若い世代は

帰って来ることが難しい。また高令世代の交通手段の無い下では戻りたくても戻ることが無い現状にある旨が報告された。

(3) 150名程のシンポジウムではあったが、福島県外の地方

自治体議員が「福島を忘れない！」集いに参加してくれたことに感謝したい。

※ 添付資料（視察資料、写真、説明者の名刺（写）、行程表 等）

報告者氏名 菅野寿雄